

**安全**で**住みよい**  
まちづくり

ニュース

防災交通課  
(内208)

# 防災への意識改革 ④

## 自分の身を 守るために 何をすべきか

九月一日は「防災の日」です。  
一九三三年（大正十二年）に起きた関東大震災の教訓を忘れないようにと、この時期に多い台風への心構えを含め一九六〇年（昭和三十五年）に制定されました。

毎年、日本列島のどこかで自然災害が発生しています。今年も七月下旬には、長野県や九州地方で記録的な豪雨により大きな災害が発生しました。

私たちの町でも、記憶に新しいところで、平成十二年九月に発生した「東海豪雨」により、家屋が浸水するなどの多大な被害に遭いました。「防災の日」を前に、いざという時自分の身を守るために何をすべきかあらためて皆さんに考えてもらうために、今回は「風水害」と「地震」に備えるの特集を組みました。一人ひとりが防災について考え、災害が発生した時にどう行動すればいいのか、この機会に本気になって考えてみてください。

### 風水害に 備えるために

最近では短時間に局地的、突発的な大雨が多発しています。予報エリアが細分化されましたが、集中豪雨は予測しにくく、ラジオなどで最新

の情報を入手することが大切です。気象警報の中で、「一時間に五十ミリ以上の非常に激しい雨が降り、過去数年間で最も土砂災害が発生する危険性が高くなっている」という表現があった場合は特に気をつける必要があります。

**浸水時の避難の注意点**  
深さ五十センチメートル（膝上）を上回る場所での避難行動は危険です。流れが速い場合は二十センチメートル程度でも歩くことが困難になります。

側溝や水路などの位置が分からないので、長い棒などで確かめながら、二人以上で歩きます。車は水没し走行不能の恐れがあります。避難所までの歩行が困難となったら、生命を守ることを最優先として、自宅や隣接建物の二階などに緊急的に避難しましょう。

※気象庁による。

大雨注意報・警報の発表基準【知多地域】	
大雨注意報	大雨警報
1時間雨量が20mmかつ総雨量50mm	1時間雨量が40mmかつ総雨量100mm
3時間雨量が40mm	3時間雨量が80mm
24時間雨量が80mm	24時間雨量が150mm
以上になると予想される場合	以上になると予想される場合

### 集中豪雨について

集中豪雨は、短時間のうちに狭い地域に集中して降る豪雨のことで、梅雨の終わりごろによく起こります。

豪雨が発生すると、中小河川のはらんや土砂崩れ、崖崩れなどによる大きな被害が予想されます。

河川流域や急傾斜地、造成地付近の方は、気象情報に十分注意し、いざというときの避難に備えましょう。



避難と救助の心得は隣近所の協力です。日ごろから声を掛け合い、特に高齢者、障害者、子どもがいる場合はお互いに助け合いましょう。

※気象庁による。

1時間の雨量	予報用語	人の受けるイメージ
10mm以上～20mm未満	やや強い雨	ザーザーと降る。
20mm以上～30mm未満	強い雨	どしゃ降り。
30mm以上～50mm未満	激しい雨	バケツをひっくり返したように降る。
50mm以上～80mm未満	非常に激しい雨	滝のように降る。 (ゴーゴーと降り続く)
80mm以上	猛烈な雨	息苦しくなるような圧迫感がある。 恐怖を感じる。